

持続可能なまちづくりのための計画を作ります



将来世代にわたって持続可能で暮らしやすい「コンパクトなまちづくり」を行うために、市では、立地適正化計画を作成しています。住宅や生活に必要なサービスが集まった区域を計画の中で定め、各拠点の行き来ができるようにすることで、今の生活を維持できる暮らしやすい「まち」を目指します。

将来のまちのイメージ

複数の拠点を定めて、住宅や生活サービスを集中させることで暮らしやすいコンパクトシティに

必要なサービスが集まっているから安心だね！



各拠点が公共交通で繋がっているから、移動に困らないね！



各地域に拠点があるから安心して暮らせるね！



居住や都市機能の集約

赤で囲まれたエリア

都市機能誘導区域

日常生活に必要なサービスを利用できる中心的な拠点を定めるために、商業施設や医療機関等の立地を進める区域を定めます。

青で囲まれたエリア

居住誘導区域

まちを維持するために必要な人口密度を確保するため、住宅の立地を進める区域を定めます。各地域の移動は交通の確保を図ります。



誰もが暮らしやすいまちを作っていくために

市では、令和4年度中に立地適正化計画を公表し、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。今後は、まちづくりに関する意見も募集していきますので、みなさんからの鹿屋のまちをを考えていきましょう。



●ご意見をお寄せください！

「コンパクトで持続可能なまちづくり」に関する意見を募集しています。お気軽にお寄せください。

市都市政策課 Tel 0994-31-1130

FAX : 0994-41-2936 E-mail : toshi@city.kanoya.lg.jp

今後のスケジュール

令和3年度 計画素案を作成し、住民説明会とパブリックコメントの実施

令和4年度 計画策定・公表

豊かな暮らしを実現する多極ネットワーク型

コンパクトシティのまちづくり

人口減少・高齢化が進行していく中、子どもから高齢者まで誰もが安心して快適に暮らせる環境を形成しながら、持続可能な都市経営を再構築することが必要となっています。市では、これらの課題に対応するため、住宅や商業・医療・福祉施設などを緩やかに集約し、コンパクトなまちづくりを目指す「立地適正化計画」の作成を進めています。

市都市政策課 Tel 0994-31-1130

市街地空洞化のイメージ

人口密度が減り、空き家や空き地が増えた状態を市街地空洞化といいます。空洞化がおきると、様々な問題がおきて、暮らしにくい地域になってしまいます。

空き家や荒地が増えて、治安が悪いな…



移動に必要なバスがなくなるんじゃないかな…



近くにお店や病院がなくて安心して暮らせないな…

人口密度が低い居住地に起こる問題

生活に必要なサービスの縮小

利用者が減少すると身近にある商店や病院等が廃業し、暮らしにくくなります。



公共交通の減便・撤退

利用者が減少すると、バスの運行本数が減少したり、路線が廃線となり、買い物などが不便になります。



空き家・空き地の増加

空き家や空き地が増加すると防犯機能の低下や、景観の悪化につながります。



公共施設の維持管理が困難に

公園や道路などの公共施設の維持補修のための予算が確保できず、利用がなくなる可能性があります。



市の現状と未来予測

鹿屋市の人口は、平成12年以降減少しています。令和7年には10万人を下回り、令和22年には現在の人口の約2割が減少し、8万6,000人ほどになると予想されています。

また地域経済を支える生産年齢人口（15〜64歳）が減る一方で、高齢者の割合が増加することが予想されます。

このような中、市街地や居住地の周辺では人口が増加傾向にあります。

このまま人口密度の低い市街地や居住地の範囲が広がり続けると、「生活の利便性の低下」や「管理の行き届かない空き家の増加」などにより、まちの魅力が低下し、市全体としてさらに人口減少が進む可能性があります。